

WebCT を活用した遠隔授業の成果

石田 三樹*, 越智 泰樹*, 奥田 麻衣*

The Effects of Distance Education supported by WebCT

Miki ISHIDA*, Yasuki OCHI*, Mai OKUDA*

We offered 7 courses in the form of distance education from 1999 to 2007 at the Faculty of Economics in Hiroshima University. They were initially designed as face-to-face courses at Higashi-hiroshima campus, and offered to Higashi-senda campus about 20 miles apart via bidirectional distance education system. Our biggest problems in 1999 were high ratio of dropout and low level of academic attainment of the students. Therefore, we introduced WebCT as a supplement to our on-campus lectures in 2002. After applying WebCT, the ratio of dropout students declined sharply and the grades showed outstanding improvement. The improvement of educational effectiveness was more in distance education than in face-to-face lectures. This paper summarizes the effects of applying WebCT, especially on the distance education.

キーワード：WebCT, 双方向, 遠隔授業, 学習効果

1. はじめに

広島大学経済学部は、東広島市の東広島キャンパスに昼間コースを設置するとともに、広島市内の旧広島大学本部地区（東広島キャンパスから約 30km）には昼夜開講制の東千田キャンパスを設置している。

1999 年度後期、我々は東千田キャンパスでの開講授業科目拡充を目的として SCS (Space Collaboration System) を利用した遠隔双方向授業を実施した。その後、2000 年 10 月には、学内高速 LAN を利用した双方向授業システムが増強され、2つのキャンパス間でデジタル化 (MPEG2 相当) した映像や音声を取り取りすることができるようになった。本稿は、これらの双方向授業システムを用いて、これまで 9 年間で実施してきた、合計 7 科目の遠隔授業実践の成果をまとめたものである。

遠隔授業のように、情報を通信メディアで送る授業と対面授業との教育効果に関する研究は数多いが、冷静に考えれば、「適切なメディアの活用が行われた場合、その学習効果には有意な差はない⁽³⁾。」「メディア

は教授活動を運ぶ単なる乗り物であって、生徒の学習達成には影響しない⁽⁴⁾⁽⁵⁾」はずである。

ところが、現実には教育における新しいメディアの活用は、画期的な教育成果の向上をもたらすとの大なる期待がある。この期待を支持するように、対面授業と遠隔授業の学習効果はほぼ同等であるが、合格率に関しては遠隔授業のほうが高いとの報告も見受けられる⁽⁶⁾⁽⁷⁾。

メディアそれ自体は学習に影響を及ぼさないと考えられるが、新しい技術はそれがどのようなものであれ、その新奇性ゆえに学生がより多く学ぶ傾向にある。さらに、担当講師は、メディアの変化に応じて、よりよく準備された教材を提示する傾向がある⁽⁴⁾⁽⁵⁾。

一方で、奥村他⁽⁸⁾のように遠隔授業の限界を指し示すものや、吉田⁽⁹⁾や照屋他⁽¹⁰⁾のように遠隔授業と対面授業とで学習活動の特徴の違いを見出す研究もある。乗り物としてのメディアの特性を知り、その利点を生かしながらありうべき欠点を補うことができれば、学習効果を向上させることができるはずである。

* 広島大学 (Hiroshima University)

受付日：2008 年 1 月 12 日；再受付日：2008 年 8 月 29 日；採録日：2008 年 11 月 25 日